

平成 27 年 1 月 吉日

第 4 回「わが家の年越蕎麦、私たちの年越蕎麦」コンテスト

ち いき けい ほん
地域 繫 絆 賞

私たちの「大晦日 年越し蕎麦打ち会」

谷岡真弓（江戸ソバリエ「石臼の会」）

江戸時代中期頃には、年越し蕎麦を手繰るようになっていたという。それでは、お江戸の長屋 熊さん八つあんの年越し蕎麦は、どんなだったろう。長屋の水屋事情を思えば、災厄を断ち切り、ご縁が細く長く繋がる感謝を込めて、鼠舂の蕎麦屋で粋に手繰った…と見るのが順当か。

しかしここでは、一年の締め括り縁起物とばかりに、ご隠居さんの掛け声のもと、猛然と張り切って横丁に板を渡し急ごしらえの蕎麦打ち場をこさえ、熊さん八つあんはじめ女将さんやら皆が協力して蕎麦打ちに勤しんだ、と想像してみたら、それはそれでなんと楽しいだろう。長屋をあげての祭りのような年越し蕎麦打ち、それを手繰って一年を締めくくる。佳き年が迎えらそうだ。

こんな夢想から生まれたのが、私たちの年越し蕎麦である。



そもそもは 15 年前の秋、高層マンションの文化祭イベントで、「どれ、蕎麦でも打ってみようか」と地域のご隠居の一声で始まった。技術よりもまず楽しく住民が絆を結ぶことが主目的で、なんでも「いいねえ～やってみよう」と見切り発進してしまう急ごしらえの蕎麦打ち倶楽部の誕生だ。

そんな経緯のお気楽団体が、先に紹介した妄想に乗って、住民皆でお祭り騒ぎの「大晦日年越し蕎麦打ち会」を主催しようとなった。つまりは、まだ己の蕎麦打ちもままならぬ倶楽部員、熊さん八つあんと並ぶおっちょこちょいが、蕎麦打ちの迷船頭役を務めるのだ

から、できあがる蕎麦の完成度は……ご想像の通り。

だから、参加する高層型横丁（長屋でなく、高層か？）の皆の蕎麦打ちは、そりゃあ～もう混迷を深め、船頭多くして…の言葉の通り？ 船高い高い山に登ることしばし。

しかしまあ蕎麦と呼んでよいものかどうか…の代物が打ちあがったって、へっちゃら。そこはそう高層の住民ゆえ、高いところには慣れっこだ。祭り気分を一緒に盛り上げてやろうという殊勝な心持ちの参加者もあり、そんな面々は絆Tシャツで会場入りすることもある。会場は和気藹々。少々敗れたって繋がらなくたって失敗もなんのその、たった今作った独自流派を名乗って、「これでいいのだ！」と言っても全員ニッコリ笑ってOKする。



左白地：

楽しくやろうということで、蕎麦包丁をデザインした蕎麦倶楽部揃いのTシャツを作った。勿論、蕎麦打ち倶楽部専属プロデザイナーの仕事。

右ピンク地：私達のマンションでは、3.11東日本大震災以降、被災地への募金の為、また住民の絆を確かめ合う為に絆Tシャツを製作販売。（笑門来福所有はピンクですが、他の色も有り。デザインは???誰かしら?）

こうして、日頃から他のイベント（フリーマーケット有り、餅つき有り、コンサート有り、講演会有り、他色々有り）でも「まず、カタチから入る」「楽しく、遊び感覚」の合言葉が徹底的に刷り込まれている土壌もあって、楽しく集うことに意義があると「大晦日年越し蕎麦打ち会」のリピーター率は非常に高く、大晦日の一大イベントとして定着した。

見切り発車のお気楽倶楽部ゆえ活動のズッコケブリを披露すれば限がないので、そこは別の機会に譲るとして、技の未熟な私達が不相应な大人数体験参加型「大晦日年越し蕎麦打ち会」を主催するにあたって、一応それなりの仕事はするというのを、言い訳がましく書いておきたい。

まず、会場使用手続き。次に参加者募集。毎年12月に入ると高層マンションの誰もが利用するエレベーターホール1階掲示板に参加者募集告知を出す。倶楽部員でもあるプロデザイナー（この人が前出の「蕎麦でも打ってみようか?」と言い出した張本人でもある）が作る告知ポスターは、住民の気持ちを掻きたてるのに必要十分な条件をすべて完全に満たしており、そうとは知らない人もその気にさせて、毎年新規の応募者が少しずつ増えた。14年目の2014年大晦日は、75組で220人を超すことに。今や揃ってご隠居のお年頃になりつつある私達倶楽部員には、ここの辺りが数の限界だとも思う。

さてそして、申し込み締切日後、参加者リストの作成。粉の手配、製麺の見た目はともかくとして美味しい蕎麦を食べて貰いたいので、粉はそれなりの物を調達する。蕎麦打ち道具、備品の確保。ついでに当日参加倶楽部員 20 数名分の御苦労さん会食事・酒なども手配。

開催前日 12 月 30 日には、会議用の机を組んで延し台を固定することから始め、鉢にはマンション自治会備品ステンレスボールも借り、会場ホールへ運ぶ。ホームセンターで買った木製棒やら、倶楽部員所有品やら、何とか集めたものを麺棒にし、手先に覚えのある者が木片からこさえた駒板も並べる。道具類にも心を配る崇高な趣味蕎麦を打っている方々が見たら、「酷い、なんじゃこれは？」と腰を抜かすような物ではあるけれど、一度に 17~8 組が水回しを始められるように、老体にムチ打って会場を設えるのだ。あとは、挽きたて国内産ソバ粉を二八にし、申し込み人数・粉量毎にビニール袋に小分けして、参加者リストと照合。

大晦日朝、揃いの T シャツを着た倶楽部員が集まり一日の流れを確認。一般参加者が来る前の会場で、心を込めて一年の締めくくり自宅用の年越し蕎麦を打つ。

その後、体験申し込み参加者それぞれの打つ分量の粉と、加水率を踏まえて計量した水をセットしておく。たとえ参加者が、ドット一気に水を入れても、失敗は最小限にする為だ。

いよいよ開場となれば、受付・会計係が参加者から粉代を徴収し、見た目も？熊さん八つぁんスタッフが、小さな子供が来てもケガのないように心を配り、その都度 鉢・延し台・麺棒・包丁の清掃世話焼きを徹底する。時には少し手を貸して、打ち粉を振ったり、修正したりも。





誰もが気忙しい大晦日に 200 人以上が集まっても、気持ちよく人が流れて待ち時間を作らないように段取りすることは、なかなか大変。申し込み参加者が連絡無く会場にこない場合は、予期せぬ体調の変化があったのかと心配になり安否確認をすることも、代わりに打って部屋まで届けたことも有る。

最後に、粉だらけになった会場を、正月を迎えるに相応しいように丁寧に掃除をして帰ることは勿論だから、早朝から日が暮れる頃まで目の回るような忙しさで、恒例とはいえ蕎麦倶楽部員には大変な年の瀬だ。

その甲斐あってか 14 年の間に、爺が小学生の孫を連れて来ていたものが、やがて孫が主体となり、場合によってはひ孫共々打って、出来上がった麺（いや蕎麦団子か？）を爺や爺の友人たちに差し出すようになった。一人の住民が友人を連れて参加し、やがてその繋がりで新しい家族ができたグループもいる。

この大規模高層マンションに、巣立ったはずの 2 世代目・3 世代目が帰って来て住み始める例の多いのは、こういった機会が回り回って何処かで何かの役に立っているのでは、と密かに思う。



息災でありますようにと、高層型横丁のご近所さんがご近所さんと年越し蕎麦で繋がる。それを持ち帰って家族で囲んで手繰る。拙く不細工な蕎麦だって、古代からの自然観や祈りが凝縮されている事に、少しもかわりはない。

こうして一年の区切りの時に「蕎麦は人を繋ぐ。」を実感し、繋いでもらったご縁に感謝し、背筋を伸ばすようにして新しい年を迎えることができるのは、本当に幸せだ。

以上

〔林幸子審査員の講評〕

14年続いているこのマンションの年越蕎麦打ち会は、長く長く繋がる蕎麦の如くこれからも長く受け継がれて、大家族になりそうですね。ふれあう温かさを感じる素敵な会です。来年も、再来年も続くことを願っています。

〔石田大三審査員の講評〕

高層マンションの住人を、年越蕎麦打ちで現代版の長屋コミュニティーに、感動です。いつの時代も人はみな繋がりたいもの、その繋がりやキッカケを求めている。この高層マンションで行われている大晦日蕎麦打ち会は、蕎麦打ちは人を繋ぐキッカケ作りの大きな力となることを示しています。14年目の今年は、なんと75組220人が参加する一大イベントとなった。この繋がりを広げるために永年にわたり尽力されてきた筆者は、繋いでもらった縁に感謝し、背筋を伸ばすようにして新年を迎えることができ本当に幸せと、さらりと語られている。そこがいい。

蕎麦打ちでふれ合った高層マンションの住人同士が、エレベーターの中で親しげに挨拶を交わしてる姿が目につかびます。